

3. 玉小・豊田小地域

(1) 地域の将来像のイメージ

玉小・豊田小地域の将来像である「集落・農地と水辺の環境が保全された田園交流ゾーン」として、次のような地域の姿を目指します。

本計画が目指す地域の姿

- 集落や農地が保全され、近接する石下市街地の機能充実による利便性を背景に、魅力ある田園居住環境が整備されます。
- 玉村駅での交通結節機能の充実により、通勤・通学や観光客の利用が進みます。
- 地域の自然に親しむ場として、小貝川の河川空間の活用が図られます。

(2) 地域づくりの目標を具体化するための施策

① 地域資源の活用による魅力向上

- 小貝川沿岸については、治水対策とともに散策空間等としての河川沿岸空間活用を進めるため、自転車・歩行者の利便性確保や景観保全のための施策を進めます。
- 十一面山を中心とする区域では、これまでの活動成果を踏まえ、堤防整備等の関連施策との調整を図りながら緑の保全に努めます。

② 河川軸と公共交通軸の連携による交流の創出

- 小貝川沿岸の散策軸と玉村駅との連携を確保し、自転車等による地域資源回遊等の利便性を創出します。

③ 集落・営農環境の保全

- 集落や農地については、これらを一体的な営農空間として捉え、農業施策との調整を図りながら、集落居住環境や農地の保全に必要な施策を展開します。
- 農地については、その集団性の維持を図るため都市的要素の抑制に努めます。

(3) 地域づくりを実現するための取り組み

- 秩序ある土地利用を進めるため、行政だけでなく住民や事業者の責務の明確化を進めます。

図一玉小・豊田小地域の将来像

